



人間はどうして年をとるの

原因はまだ 研究中

人間は、年をとる（老化）と、目がよく見えなくなったり、耳が聞こえにくくなったり、足が弱くなるなど、自然に体がおとろえてきます。

ところが、この「何が老化を引き起こす原因なのか」ということについては、まだまだよくわかっておらず、研究中なのです。そのため、いろいろな考え方が発表されています。

考えられることは

人間の体は、小さな小さな細胞が集まってできており、細胞の活動が、体のはたらきの元になっているので、老化とは、細胞の活動が、おとろえることだと考えられます。細胞の活動がおとろえる原因については、次のように考えられています。

〔考え 1〕人間の体をつくっている細胞は、いつも少しずつ、新しい細胞と入れかわっているが、細胞の中には、遺伝子という設計図のようなものがあり、新しい細胞ができるときには、この設計図を読み取って、その指示通りに同じ細胞をつくっている。ところが、これを何度も何度もくり返していると、設計図の読み取りに失敗したり、指示通りに細胞をつくらないなど、同じ細胞をつくるのに失敗することがある。このような失敗は、年をとるほど多くなっていく。そして、こうしてできた細胞は、おとろえてはたらきが悪く、体のいろいろな部分のはたらきを悪くするため、それが老化の原因になっている。

〔考え 2〕体をつくっている細胞が生きていくには、血液から酸素や栄養をもらい、いらなくなったものを、血液に渡さなければならない。しかし、その活動が、何かの原因でうまくできなくなると、細胞は健全でも、これが原因となって老化する。このような考え方もありますが、まだ、よくわかっていないのです。（監修・保志 宏）

